

桜川とその附近の史跡を探る(3)

永山正

10. 加波山と加波山事件。

加波山は筑波山塊中、筑波山につぐ山で高さ七〇九メートル、山頂には名高い加波山神社(三枝祇神社)があり、加波山禪定で知られている。さて、加波山事件は明治十七年九月、この山で起った事件である。その頃、自由党を中心とする自由民権運動に対し、明治藩閥政府の極度の弾圧の爲め政府顛覆の企てが全国的にひろがったが、この加波山事件や福島事件、秩父事件、高田事件などその現われであった。

即ち、旧下館藩士富松正安以下十六名の同志は政府の弾圧と栃木県令三嶋通庸の暴政に憤り、九月二十二日加波山神社で決起し、翌二十三日真壁の警察分署を襲撃して之を爆破したが後援なく、力尽きて解散し、首領富松は十一月上総姉ヶ崎で逮捕され、明治十八年六月死刑に処せられた。明治憲法発布に至るまでの幾多の曲折の一つとして、我が国自由民権運動史上に大きな足跡を残したもので、高校の教科書には必らず載っている事件である。

11. 伝正寺

真壁町桜井にある曹洞宗の寺である。いわゆる「どっこい真壁の伝正寺」である。文永五年(一二六八)真壁城主真壁時幹が法身国師を招き開いた寺で、従って初めは臨済宗の寺で、天目山照明寺と称したが、慶長十六年(一六一一)浅野長政の菩提寺となったとき伝正寺という寺名になった。

江戸初期には禅修行の道場としても有名だった。開山の法身国師は、今の明野町猫島の人で、二十三才のとき前記の真壁時幹に仕え、草履とりとなり平四郎といっていたが、偶々草履を壊であたためて差し出したのが、腰をかけていたと誤解され、時幹に眉間を割られた。彼はこれがため草履とりをやめ僧となり中国(宋)に渡り九年の修行を積み帰朝、鎌倉の執権北条時頼のすすめで松島の瑞嚴寺を開き、龜山天皇から国師号を受けるに至った。後真壁城主時幹は、平四郎とはつゆ知らず高名な法身を招き法話を聞いたが、その時、私こそその昔眉間を割られた平四郎であると聞かされ、時幹は深く前非を謝し、伝正寺を建て法身国師を開山とした。「どっこい真壁の伝正寺」のどっこいは「どつ是真壁の平四郎」がなまったものと言われ驚いた時幹が怪しんで「何とお前は平四郎だつて」の意味であらう。